

学長だより 1/3

No.10 (はずびに出ていますので)  
No.11 に直しました

学長室だより No. 11 (2011. 1. 24)

中嶋 嶺雄

入学試験と期待する学生像 いよいよ入学試験（一般選抜）のシーズンになりましたが、国際教養大学の人気は著しく高まっていることもあって、志願者の大幅な増加が予想されています。現に2011（平成23）年度4月入学のA日程は昨年度が定員40名にたいして出願者が524名と13.1倍の競争率であったのに比して、本年度は定員40名にたいして972名と24.3倍もの競争率になっています。入学定員が確保できずに苦慮している大学が多いことを想えば大変に有り難いことであり、「嬉しい悲鳴」でもあるのですが、学長として考えなければならないこともあるように思います。それは入試倍率が高まることは、おのずから入試難易度が高くなることであり、いわゆる偏差値が高まることを意味します。そのこと自体は悪いことではないのですが、そうすると受験勉強にのみ力を入れて合格する、個性に欠けた同質の優等生集団に大学がなりかねないことです。私は本学の向上と発展に日夜努力しているつもりですが、いわゆる「偏差値大学」にはしたくないのです。なぜなら、本学の理念と目標は国際社会と地域社会で存分に活躍する人材の養成だからであり、外国語のコミュニケーション能力と広く深い教養を身に付けたたくましい人材を輩出することにあるからです。全く未知数の本学をあえて志望した本学の1期生、2期生にはそのような人材が多かったように思われます。

最近では本学の就職実績が注目されているために、就職に有利だから入学したいという受験生や保護者の方々が多いように思われますが、国際教養大学はあくまでも勉学であり、留学を含む異文化理解の機会でもあります。就職はそれらの結果であって、目的ではないことを是非認識してほしいと思います。

キャンパス・ライフで気づいたこと 大雪の秋田ですが、キャンパスは若い活気に満ちていて、学長としてもとても嬉しく思います。しかし私が時々授業を参観したり、カフェテリアを訪れて感じることは、日本人学生と外国人学生との間にいささか壁があって、日本人は日本人同士で、留学生は留学生同士で集まったり話したりしている光景です。キャンパスが本来的に異文化空間であるべきだという建学の趣旨が若干薄れてきているようにも思われますので、学生諸君もこの点を注意して意識的に改善してください。授業中、しばしば留学生に比して日本人学生の発言が少なく、声も小さいことも気になります。

このことにも関連すると思いますが、本学はすべての授業を英語で行うところに大きな特色があるのですが、授業が終わった後も教室内では日本語を話さないようにしてほしいと思います。

なお、皆さんご承知のように、本学はグローバル化大学のモデルになっているため、連日のように国内外から見学者が来られます。それらの見学者は本学の学生が生き活きて

学長室だよりは、日英とモノホームページに掲載され、保護者やこれから受験する高校生などにも閲覧可能です。学長からこのような指摘をいただけるのはありがたいことですが、学内喚起にとどめては足りず、

学だれ 3/3

場合によっては事務局(学生課や学生部長、部長など)からの  
口頭起はいかがでしよか

いて、来訪者に挨拶を交わしてくれることなどに感心していますが、やはり授業を見学し  
てもらうことが最高のおもてなしだと私は考えています。本学はすべてにオープンな大学  
ですし、授業が教師と学生との密室空間での所為であってはならないと思いますので、学  
長や職員が予告なしに授業見学者をお連れすることがあっても、この点は是非ご了承ください。  
先生方にもこの点を是非ご理解いただきたいと思います。

募金活動への最後のお願い 開学5周年記念の募金活動がこの3月末日で締め切られます。  
本来は昨年3月末日が締め切りだったのですが、この不況下で目標額一億円には遠く及ば  
ず、5周年記念委員会(会長・塩川正十郎氏)が開かれて期間を1年間延長した次第です。  
その結果、2011年1月25日現在、約6,700万円になりました。既に約束してい  
ただいている方もいますので、目標額に少しでも近づきたいと思っています。ここは本来  
委員長名でお願いすべきところですが、学長が代わって最後のお願いといたします。本学  
への募金には税法上の優遇措置がありますし、募金は学生への奨学金、留学生への支援、  
学内施設の整備など教学目的に使われますので、是非よろしくお願いたします。

本学は開学7年目であり、卒業生が出て三年目、同窓会も創立間もないこともあり、募  
金活動の基盤がまだ十分ではないこともあって、きわめて厳しい状況にあります。この点  
をご理解いただき、再三再四のお願いで恐縮ですが、保護者の方々には本学の授業料が低  
廉であること、大学の努力で留学時の授業料が免除されていることなどもご考慮いただき、  
何卒ご協力お願いいたします。保護者や卒業生、学生、教職員**各界**の方**も**、~~本学を~~ご支  
援ご協力**に**いただければ、幸いです。申込用紙は大学事務局にあります。私も学長とし  
て率先すべく、2,000万円を出ささせていただきました。

を

には

既募金の...  
心い  
いた  
お礼  
が  
本学の  
以外の方  
に  
お  
か  
か  
り  
な  
い  
方  
に  
は  
お  
礼  
に  
な  
ら  
な  
い  
と  
思  
い  
ま  
す

学長自著のPR この年末から年始にかけて、私の新しい本がたまたまほぼ同時に三冊刊  
行されました。多忙な公務の合間を縫って、あるいは深夜の時間を用いて書き下ろしたも  
のですが、是非皆さんに読んでいただきたい小著ですので、自著のPRで恐縮ですが、紹  
介させていただきます。一冊目は祥伝社黄金文庫の『なぜ、国際教養大学で人材は育つ  
のか』(550円<税込>)です。著者としてはこのタイトルに若干躊躇したのですが、出版社  
は是非このタイトルで出したいとのことでした。本学の中身を知っていただき、また客観  
的にふりかえる良い機会でもありますので、読んでみてください。

二冊目は私の専門分野である中国問題について、尖閣諸島をめぐる最近の日中関係や中  
国理解の原理的な諸問題を論じた編著『超大国中国の本質』(KKベストセラーズ・ベスト  
新書、819円+税)です。本書には「現代中国を読む目」と題した私の序章をはじめ、  
私を含む7名の論者の文章や、天安門事件当時の民主化運動のリーダー、ウアルカイシ氏  
らと鼎談、ユニークなロシア問題評論家の故内村剛介氏との対談も含まれています。

三冊目は『世界に通用する子供の育て方』(フォレスト出版、900円+税)と題する教  
育論・子育て論で、国際教養大学や秋田県の教育、スズキ・メソードとして知られる才能

事務局で若干手を加えて設置したサインを

かお  
いた  
た  
け  
れ  
ば  
幸  
い  
な  
い  
と  
思  
い  
ま  
す